

がんサポ通信

第 28 号
平成 28 年 8 月 12 日
発行

第 21 回日本緩和医療学会学術大会に参加しました。

6月17日（金）、18日（土）の二日間、京都で開催され、当院から7名が参加しました。

当院から2題「小細胞肺癌に合併した背部びまん性紅斑による難治性掻痒に対してプレガバリンが著効した1例」と「緩和ケア食の提供を試みて」が e-poster（会場内に設置されたパソコン上または個人のタブレットなどでの閲覧）で発表されました。

特別企画では『非がん性疾患の緩和ケア』が取り上げられました。WHO では「緩和ケアの対象は、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族である」とされています。講演では緩和ケアの適応、または必要とされる全患者のうち、約70%が非がん性患者であるが、日本の緩和ケアはがんを中心に発展し、診療報酬上の扱いも緩和ケア教育もがんが中心であったと指摘。今後のニーズを認識した緩和ケアを提供出来るよう変革が求められていると提言されました。厚労省でも議論が始まっているようで今後の展望が注目されます。

来年の開催は横浜です。



4月から緩和ケア 専従になりました。

緩和ケア認定看護師の
小野 早代です。

私の役割は、患者様やご家族のつらい気持ちに寄り添い、個人の価値観を尊重しながらできる限り苦痛の緩和を行えるよう支援することです。患者様やご家族の生きる力を支援できるように精一杯努めさせていただきます。

オピオイドスイッチングパスが 出来ました！

適応基準はフェントステープからモルヒネへの移行時で
パス日数は2日間です。
フェントステープの薬量とはがす時間で選択できるようになっていますので、ご活用下さい。

緩和ケアの申し込みお問合せは緩和ケアリンクナースまたは認定看護室へ（内線：2118）